

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270300700		
法人名	医療法人 謙昌会		
事業所名	グループホーム あんずの家		
所在地	〒031-0813 青森県八戸市大字新井田字外久保3-11		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成24年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p><b>【医療機関との連携】</b>                  入居者の健康面に関する相談や体調変化時の速やかな対応など、協力病院との連絡体制及び連携がとれている。健康維持に不可欠な栄養面に関してはNST(栄養サポートチーム)と協働し栄養状態の把握に努め、運動機能や嚥下障害などについてはリハビリ専門職(PT・ST・OT)と相談しながら改善に努めている。</p> <p><b>【地域との連携】</b>                  交流会などを開催し、地域住民と交流する機会を設けている。又、災害時には協力が得られるよう、連絡体制を整え、避難訓練にも参加していただいている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>平成24年4月1日に現在の場所へ移転し、閑静な住宅街にマッチした佇まいである。事業所内は明るく、広々とした空間で入居者が思い思いに過ごし、職員は温かく見守っている。「自由に、のんびりと、一緒に、楽しく」という理念を掲げ、管理者を中心に職員が日々取り組んでいる。移転後も、地域住民との関係性の構築が図れるように積極的に取り組まれており、日々の買物や防災訓練等の協力体制が図られている。また、母体である協力病院との連携もとれており、入居者はもちろんのこと、家族、職員の安心にもつながっている。ISOを取得し書類の整備にも努めている事業所である。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中で「自由に、のんびりと、一緒に、楽しく」暮らせるように、在宅生活の延長として、地域や自然を取り込んだケアを目指している。職員は会議やカンファレンスの場で意思を統一し、理念の実現に取り組んでいる。	管理者は理念を日々のケアに活かせるように職員への意識付けに取り組み、職員自らがケアのあり方を考えるように働きかけている。職員もまた、理念に基づいた実践ができるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な買い物、町内の行事への参加、交流会等を通じ、入居者が地域の方々と交流を持ち、安心して暮らせるように支援している。	近所の商店に入居者と一緒に行きつけたり、事業所の行事に地域住民へ参加を呼び掛ける等、新たな地域での関係作りに取り組み、日常的な交流も活発に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々やご家族との懇談会等で入居者の生活の様子や出来事を知らせ、どのように対応しているかを伝えることで、認知症の人の理解につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、評価の結果や取り組み状況の他、ホームの活動や入居者の状態、オンブズマン訪問報告などを伝え、意見やアドバイスを頂き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議では民生委員や町内会長等からアドバイスを頂き、サービス向上の為、多角的な意見を取り入れながら行い、意見交換も活発に行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議でホームの実情やケアサービスの取り組み状況を伝え、意見や最新の情報を得ている。又、疑問がある場合は電話や窓口で相談する等、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村の担当者とは日頃から事業所の実情やケアについて等、話しやすい関係作りができており、必要に応じて情報交換されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	業務マニュアルに「身体拘束排除」を取り入れ、利用者本位のケアを目指し取り組んでいる。ご家族と相談し、防犯のため玄関には内側から施錠しているが、入居者の希望があれば一緒に買い物に出かけたり、散歩をするなど、入居者の意思を尊重し支援している。	玄関は施錠がされているが、入居者の思いを受け止め、その行動を制限しないようなケアに取り組んでいる。希望に応じて外出等の支援もされており、身体拘束防止への職員の教育にも力を入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修会を開催し、高齢者虐待防止法について学び、理解するとともに、事業所内で虐待が起こらないよう職員一人一人が注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修会に参加し、理解を深め、必要に応じてそれらを活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には重要事項説明書に基づいて説明を行い、入居者やご家族等の不安、疑問点を尋ね、理解、納得を図ったうえで、文書による契約を交わしている。改定の際も同様に説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が苦情や相談の窓口となり、入居者やご家族等の意見を直接聞くほか、定期的に満足度調査を行い要望を引き出すようにしている。又、福祉オンブズマンと契約し、定期的に入居者の不満や要望を聴いてもらい、それらを運営に反映させている。	月1回、福祉オンブズマンによる訪問の他、毎年家族に対する満足度調査を実施する等、意見を言っていただけの工夫をしている。また、頂いた意見については、真摯に受止め、迅速に運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や懇話会などで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。内容については、運営方針や理念と照らし合わせ、協議のうえ決定している。	定期会議等の際、入居者の接遇についてや業務について職員が意見や提案を言える機会を設け、職員が意見を言いやすいように配慮し、フィードバックさせている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修への参加を奨励しており、職場内でその資格を活かせるようにしている。又、発揮能力評価(自己、他者)を行い、個々の努力や実績を把握し、給与や賞与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務能力力量評価を行い、職員の力量を把握するとともに、年間計画を立案し、必要な研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	デイサービスや特別養護老人ホーム等、他事業所との交流を持ち、研修会、研究発表などを一緒に行うことで、お互いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に関する相談があった場合は、本人や家族等と面談し、本人の暮らしの意向や困っていること、不安、要望に耳を傾け、良好なコミュニケーションを図り、信頼関係を築くことが出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する場合は、家族等からの質問、要望、不安、困っていることなどを聞き、ホームとして出来る限り意向に沿うことが出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族等の意向を踏まえ、主治医とも良く相談しながら必要なサービスが受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物や食後の片づけ、洗濯物たたみなど、入居者の出来ることを一緒に行い、感謝の意を伝え、共に暮らす仲間としての関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の体調や日常生活の様子を伝え、家族等の意向をうかがい相談しながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人を取り巻く人間関係の把握に努め、家族等の協力を得ながら、馴染みの場所へ出かけたり、知人、友人の訪問を歓迎するなど、これまでの関係が途切れないよう支援している。	移転した事により、距離的な不便さが出た関係者もいるが、職員や家族等の支援により、自宅や行きつけの美容院など本人が大切にしている人や場所等の関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の個性や入居者同士の関係を把握し、職員がさりげなく関わりながら、入居者が孤立しないように、又入居者同士が良い関係を築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などでホームを退居した場合や、自宅へ戻る場合など、医療関係者や介護支援専門員等と連携し、本人や家族等が安心して暮らせるように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族等からの情報や、普段の生活の中の様子、会話などから本人の意向を把握するようにしている。	本人の思いを普段の会話の中から汲み取るように傾聴する姿勢を持ち、その思いを大切に、家族の協力のもと取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族等に情報提供をお願いすると共に、生活の中の本人の様子や会話から把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの様子、本人の出来ること、出来ないこと、言動などを生活記録に残し、職員が情報を共有することで、現状を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、入居者の課題や目標、現在の状況などについて話し合い、医師や看護師等の意見、本人や家族等の意向を伺いながら、介護計画を作成している。	日頃から本人の要望や家族からの要望を聞き取り、職員からの意見や、時には医師や看護師等の専門職からも意見を頂きながらケアプラン作成に取り組んでいる。また、必要に応じてケアプランの変更も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康状態や生活の様子、気づき、ケアの実践などを個別に記録し、職員が情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の病院やデイサービス等と協力、連携し、入居者やご家族の状況、要望に柔軟に対応し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の協力で地域の行事に参加したり、消防や地域住民の協力による避難訓練の実施、地域の中学生の職業体験受け入れなど、地域と協働しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等と相談の上、かかりつけ医を受診できるようにしている。本人の心身の状態や訴え等を医師に伝え、適切な医療が受けられるように支援している。	本人及び家族の希望に応じて、整形外科や眼科等受診支援が行われている。また、直接かかりつけ医との連携も取れており、巡回診療も行われるなど介護と医療の連携が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者の体調変化や、日常の関わりの中でとらえた気づきなどを看護職員に相談し、適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療に必要な情報を医療機関に提供すると共に、医師や看護師から回復状況、退院のめど等の情報を得て、連携しながら、速やかな退院へ繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後予想される入居者の体調変化や対応方法などについて、チームで検討し、職員教育など体制を整えると共に、医師や看護師、家族等と情報を共有し、本人の希望に添うよう共に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期の説明を行っている。状態悪化時には家族等にもわかりやすい文章で説明し、医師からのコメントがあるなど、家族等の意向に添える体制が整っている。また、職員への勉強会も行われ、事業所全体で取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や事故発生時の対応について、マニュアルを整備している他、定期的に内部研修を開催し、職員全員がスムーズに適切な対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアル、緊急連絡網を整え、避難訓練には地域の方々にも参加していたり、協力体制を築いている。	災害マニュアルをもとに、地域住民の協力も得ながら訓練が行われている。新人職員については、早めに訓練が行えるように配慮し、また食料品等の備蓄も備えるなど意識的に行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	食事や入浴、排泄などの日常のケアにおいて、一人一人の意思を尊重し、プライドを傷つけないよう配慮した言葉かけや対応をしている。	管理者は、日々のケアの中でプライバシーに配慮した声かけや対応ができるように指導している。また、職員に対しては、自分のケアの自己評価を行ってもらい、自らが気付きを持てるように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のあらゆる場面で、一人一人が思いを表せるよう、わかりやすく説明し、問い掛けながら自己決定を促し、本人が納得しながら暮らすことが出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など1日の流れはあるが、一人一人のペースを大切にし、体調や気分などに応じて、臨機応変に対応し、出来るだけ希望に添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて美容院でのカットや毛染めなど、その人らしいおしゃれが出来るよう支援している。また、基礎化粧品やメイクなどで、楽しく意欲的に生活することが出来るよう取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に食事をしながら、必要に応じて介助し、食後の片づけも入居者の出来ることを一緒に行っている。	入居者からの希望を聞いたり、入居者と職員と一緒に買物をしている。また、職員も一緒に食事をし、楽しく食事ができるような雰囲気作りがされている。それぞれができることを活かしながら支援されており、片付け等も手伝いをお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせた食事形態、量、回数などを考慮して提供するとともに、摂取量を記録に残し、状況を把握している。また、栄養サポートチームで入居者の栄養状態について検討し、改善に向けた取り組みを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの必要性を理解し、入居者の状態に応じて歯磨きの声かけ、見守り、介助を行っている。また、歯磨きコップや歯ブラシも定期的に消毒し、清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者の排泄パターンや習慣を活かして、排泄の兆候が見られた場合はトイレに誘導するなど、失敗やおむつの使用を減らし、排泄の自立に向けた支援を行っている。	入居者からの排泄シグナルを適切にキャッチできるように、表情等の情報を把握している。自尊心を傷つけないような言葉がけを行い、できるだけトイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や野菜、寒天などを献立に取り入れている他、水分摂取や運動を促し便秘の予防をしている。また、自力で運動が出来ない方には、腹部温電法やマッサージなどを行い、出来るだけ下剤に頼らない工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴を目安にしているが、その日の気分や体調に応じて、臨機応変に対応している。入浴時のリスクを考慮し、マンパワーを確保出来る日中に、満足のいく入浴が出来るよう支援している。	お風呂の窓から木々を眺めながら入浴ができる。それぞれの希望に応じて、ゆっくり入浴を楽しめる雰囲気作りを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人の生活パターンやその日の活動量、体調、本人の希望に応じ、午睡や休息を促し、夜間不眠時には、温かい飲み物をすすめたり、話を聞くなど、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の薬の内容(目的、副作用、用法、用量)をファイルにまとめ、必要時にはいつでも見ることが出来るようにしている。毎回、服薬確認を行い医師の指示通りに服薬出来るよう支援すると共に症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の片づけや、自室の掃除、買い物など、個々に合わせた役割、季節毎の行事や誕生会、地域交流などにより、張りあいや喜びを感じる事が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、ドライブなど、その日の入居者の気分や体調に留意しながら、希望の場所に出かけられるよう支援している。また、ご家族と一緒に買い物やお墓参りなどに出かけるなど、家族等の協力も得られている。	本人の希望に応じて、個別に日常的な外出支援が行われている。また、家族の面会時等に、買物や喫茶店に外出されるなど、家族の協力も得ながら行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで安心感を得られ、社会性を維持するためにも重要であることを職員は理解しており、入居者の希望や能力に応じて少額のお金を所持してもらい、買い物の際は自分で支払うことが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者一人一人の状況や持っている力に応じて、個別に電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の光、温度、湿度は入居者の声を聴きながらこまめに調節している。また、花壇には季節の花を植え、心休まる空間作りをしている。	いくつかのソファやテーブル等があり、適度な距離感が保て、落ち着ける空間となっている。窓からの光も心地よく、室内の木々も鮮やかで、落ち着ける空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブル席の他にソファを置き、玄関ホールや廊下には椅子を置く等、入居者が一人で休んだり、気の合う入居者同士と一緒に過ごせる場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者やご家族と相談しながら、馴染みの家具や寝具、家族の写真などを準備していただき、居心地良く、安心して生活することが出来るようにしている。	自宅にて使い慣れたなじみの品々を持参してもらえるように呼び掛けており、家具やベッドを部屋に置くなど、本人の居心地のよい居室となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、トイレ等に手すりを設置している他、車椅子用の洗面台を設置し、安全面に考慮しながら、入居者の身体機能に応じて、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		